

6 ベンダーの不正を防止するための6つの方法

適切な防止策を講じなければ、ベンダーの不正によって多大な被害を被ることになりかねません。ベンダーの不正は発見することが困難なのです。また、Kroll 社が 2019 年に発表した世界の不正とリスクに関するレポート「Global Fraud and Risk Report: Mapping the New Risk Landscape (邦訳: 最新のリスク情勢)」によると、グローバル企業の間でベンダーの不正に対する懸念が高まっていると言われています。

28% ↑10%

の企業が、過去1年以内に**外部当事者**（サプライヤー、ベンダー、ビジネスパートナー）の不正行為による被害に遭ったと回答（**昨年比10%増**）*。



68% のグローバル企業が、**外部当事者**（サプライヤー、ベンダー、ビジネスパートナー）の不正行為に対策を講じる優先度は高い、または**非常に高い**と回答*。

ベンダーによる不正の例



虚偽の支払い
架空業者への支払い



小切手の改ざん
小切手の受取人情報を変更

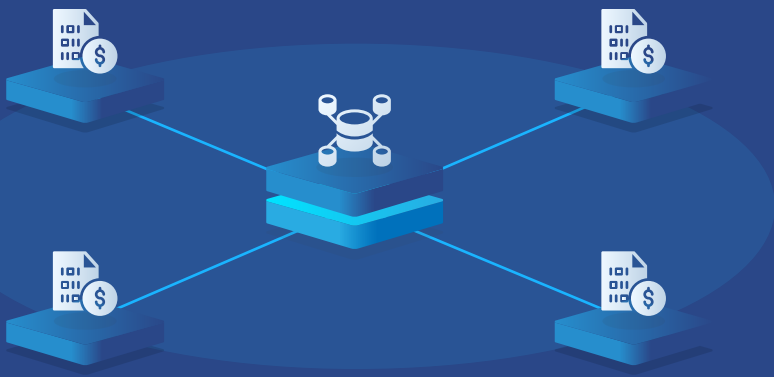


過大請求
発注していない商品も含めた水増し請求



市場価格の操作
予算案に基づき、業者同士が協力して価格をつり上げ

提案される防止策

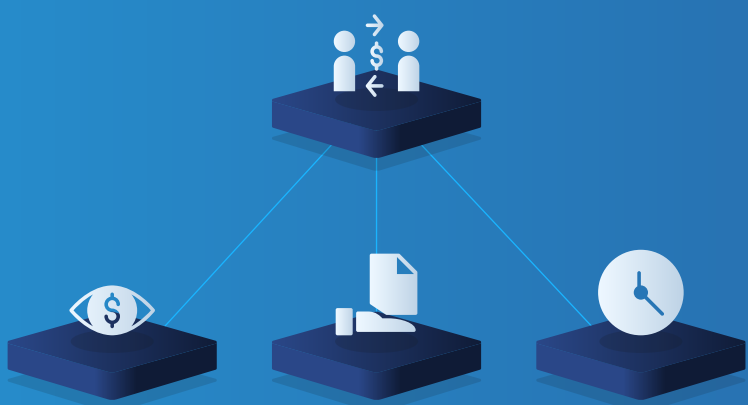


1 全ての支払先ベンダーと支払手段を一元的なデータベースで管理する

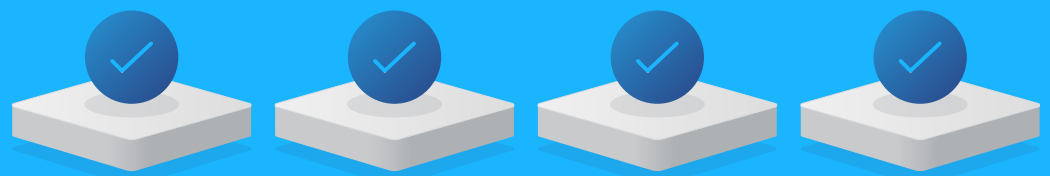
2 ベンダーをフィルタリングするために、禁止リストと許可リストを作成する



3 使われていないアカウントの削除ワークフローを確立する



4 複数の支払承認プロセスを組み込む



5 ベンダー情報と従業員の記録を照合する（重複データを疑う）

6 一般的な不正のパターンや特性（リスクの高い住所、国、請求書番号など）を検出する

